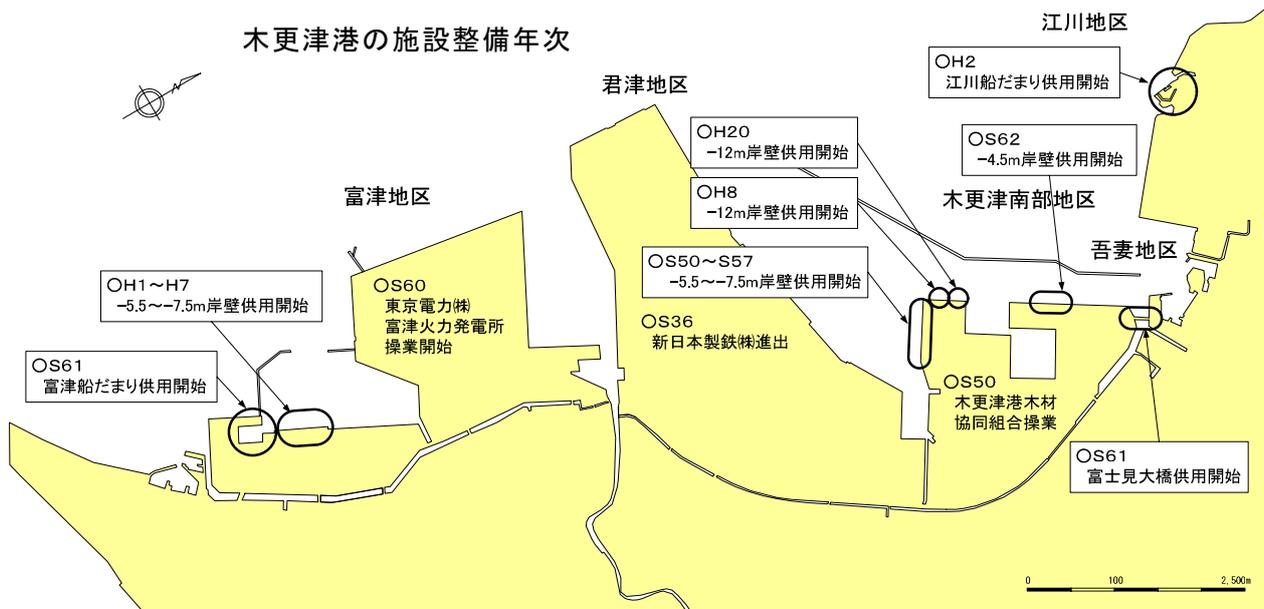


## 2. 木更津港の現況

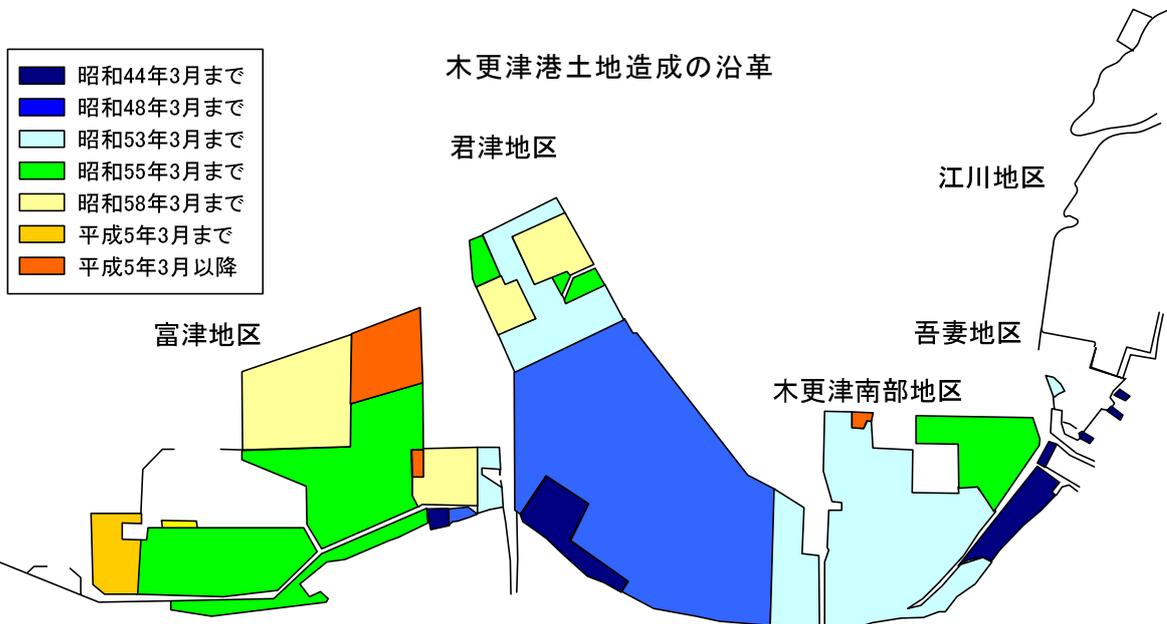
### 2-1 木更津港整備の概要

- ◆平成 2 年 3 月 木更津港港湾計画改訂
- 平成 2 年 4 月 江川船だまりの供用を開始
- 平成 7 年 4 月 富津ふ頭 E・F 岸壁(-7.5m 2 バース)の供用を開始
- 平成 8 年 4 月 木更津ふ頭 G 岸壁(-12.0m 1 バース)の供用を開始
- 平成 9 年 12 月 東京湾アクアラインが開通し、木更津港～川崎港間の東京湾内フェリーが廃止
- ◆平成 10 年 7 月 木更津港港湾計画改訂
- 平成 15 年 4 月 総合静脈物流拠点港(リサイクルポート)の指定を受ける
- 平成 16 年 7 月 改正 SOLAS 条約に対応した埠頭保安対策を開始(木更津埠頭・富津埠頭)
- 平成 18 年 3 月 木更津港湾物流効率化特区に認定
- 平成 18 年 8 月 臨港地区決定(74ha)
- 平成 20 年 4 月 木更津ふ頭 H 岸壁(-12.0m 1 バース)の供用を開始

木更津港の施設整備年次



木更津港土地造成の沿革



## 2-2 木更津港の各地区の特徴

○木更津港は5地区に分けられており、現在の利用状況は以下のとおりである。

### 【江川地区】

- ・漁業活動の拠点

### 【吾妻地区】

- ・漁業活動の拠点
- ・ガット船の係留基地
- ・木更津港の賑わい空間であり、潮干狩り客が多く訪れる

### 【木更津南部地区】

- ・砂利砂貨物取扱の拠点
- ・水面整理場、水面貯木場が整備されている
- ・多くの木材関連企業が立地
- ・大型商業施設の整備が計画されている（工業用地⇒都市機能用地 41ha）

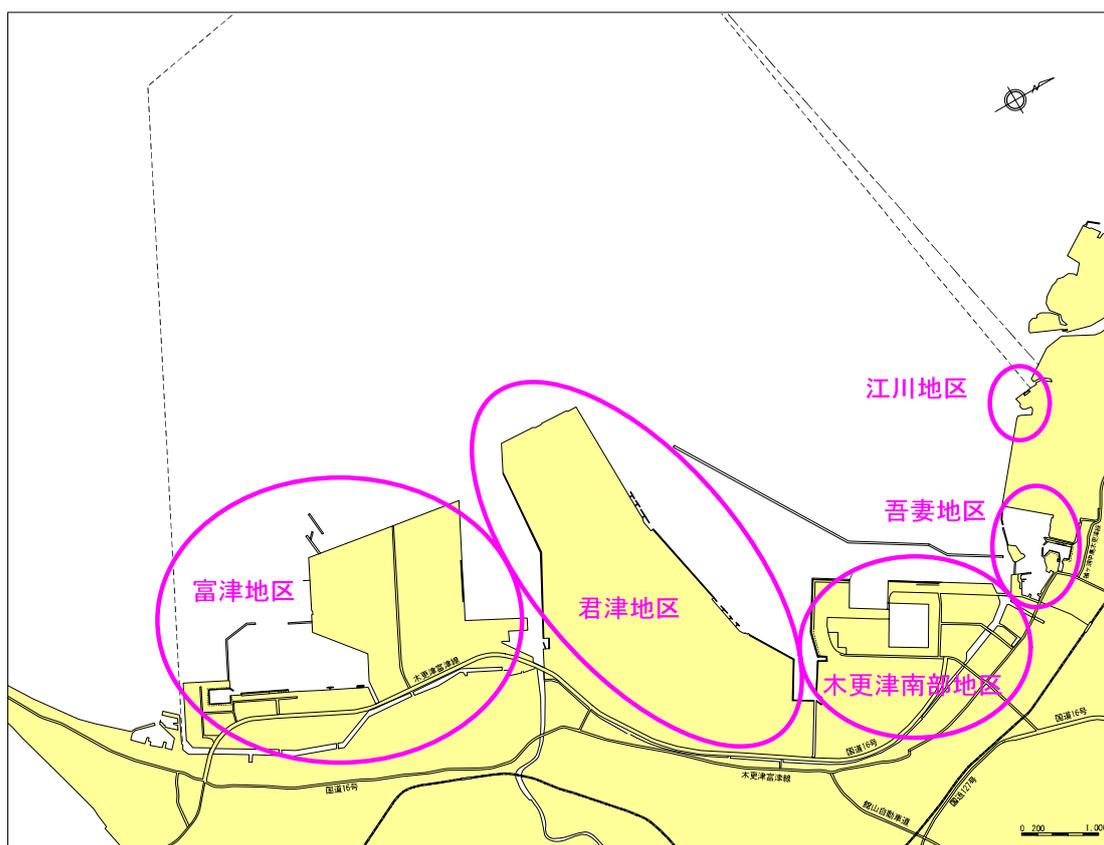
### 【君津地区】

- ・新日本製鐵(株)君津製鉄所が立地

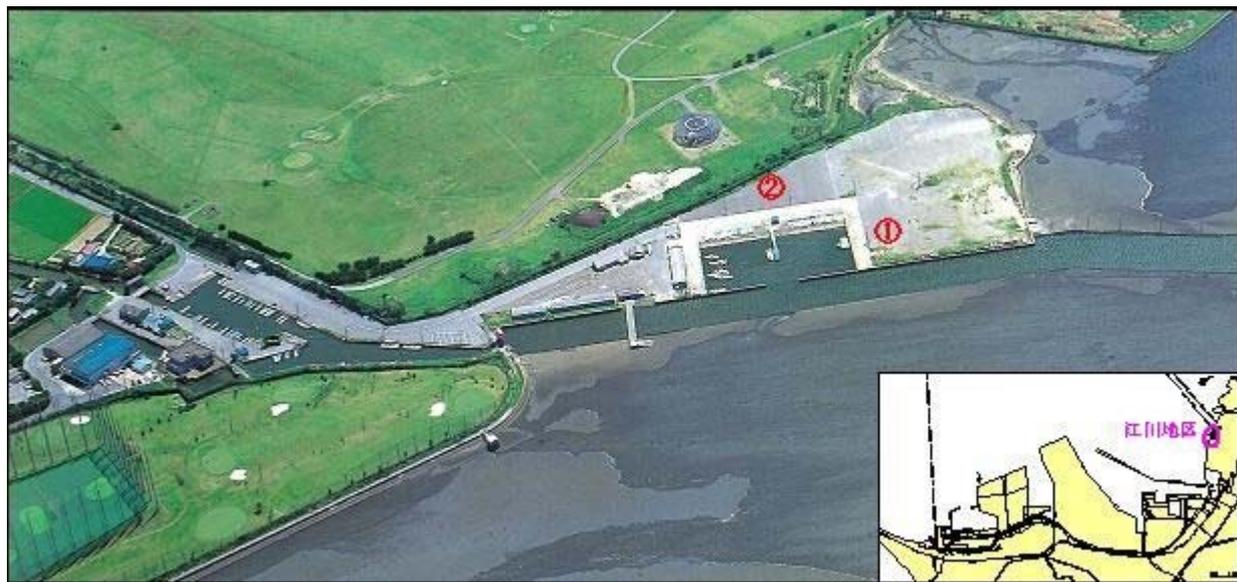
### 【富津地区】

- ・東京電力(株)富津火力発電所が立地
- ・公共ふ頭が整備されている
- ・背後には工業用地が整備されており、94%が売却済み(平成20年8月現在)であり、今後工場立地が進む予定である

木更津港の各地区



■ 江川地区



□ 係留施設

〔公共〕

- ①江川物揚場 -2.0 40m×2
- ②江川船揚場 -2.0 90m

□ 特徴

- ・ 係留施設は、物揚場と船揚場が整備されている。水深2mと浅く、貨物の取扱いはない。
- ・ 小型船だまりとして、漁船20隻・プレジャーボート4隻が係留している。

■ 吾妻地区



□ 係留施設

〔公共〕

①木更津港公庁船用浮棧橋	-3.0	40m×2	⑩小型船棧橋 (2)	-1.5	15m×2
②通船浮棧橋	-2.0	15m×2	⑪小型船棧橋 (3)	-1.5	15m×2
③定係場	-3.0	54.0	⑫内港物揚場 (1)	-3.0	36+32m
④定係場棧橋	-2.0	36m×2	⑬内港物揚場 (2)	-3.0	347.0m
⑤第2定係場棧橋	-2.0	21m×2	⑭新宿船揚場 (1)	-1.3	168.0m
⑥西棧橋	-3.0	18m×2	⑮物揚場	-2.0	240.0m
⑦中央棧橋	-3.0	50m×2	⑯船揚場	-2.0	20.0m
⑧東棧橋	-3.0	19m×2	⑰吾妻物揚場	-2.0	239.0m
⑨小型船棧橋 (1)	-1.5	15m×2			

□ 特徴

- ・ 昭和40年より木更津・川崎間に就航していたフェリーは、東京湾アクアラインの開通により廃止となった。
- ・ 港の再整備が進められており、物揚場、臨港道路などの整備が進められている。
- ・ 公共係留施設の数は多いが、漁船、作業船等が多く係留しており、取扱貨物量は少なく、重油などを取り扱っている。

■木更津南部地区



□係留施設

〔公共〕

①木更津ふ頭 H 岸壁	-12.0	240.0m	⑥木更津ふ頭 C 岸壁	-5.5	90.0m
②木更津ふ頭 G 岸壁	-12.0	240.0m	⑦木更津ふ頭 B 岸壁	-5.5	90.0m
③木更津ふ頭 F 岸壁	-7.5	130.0m	⑧木更津ふ頭 A 岸壁	-5.5	90.0m
④木更津ふ頭 E 岸壁	-7.5	130.0m	⑨木更津ふ頭 物揚場	-4.0	362.0m
⑤木更津ふ頭 D 岸壁	-5.5	90.0m	⑩潮浜 A・B・C・D 岸壁	-4.5	240.0m

〔専用〕

○木更津木材港団地協同組合	-10.0	500.0m (2B)
○堀江商店	-4.5	85.0m (2B)
○丸和建材社	-4.5	92.0m (1B)
○共栄運輸	-4.5	50.0m (1B)
○ジャパングリーンテック・大川海運	-3.8	60.0m (1B)
○三栄海運・中央航運	-4.5	60.0m (1B)
○トーヨーカネツ	-6.0	350.0m (3B)

□特徴

- ・ 水深 4.0m 物揚場及び水深 5.5m 岸壁 4 バース、水深 7.5m 岸壁 2 バース、水深 4.5m 岸壁 4 バースを供用中であり、主に砂利・砂の積み出し基地として利用されている。
- ・ 外貿貨物に対応するため水深 12.0m 岸壁 2 バースが整備され、これらの岸壁では金属くず、鉄鋼・鋼材などが主に取り扱われている。また、今年 8 月に第 1 船が入港し、中古車の輸出がはじまっている。

■ 君津地区



□ 係留施設

〔専用〕

○新日鉄 E1 E2 WC・鉄原	-3.0～ -19.0	4,133.0m (23B)
○新日鉄化学	-5.5	110.0m (1B)
○新日鉄木更津 E3～黒崎窯業	-4.5～ -11.0	1,909.0m (12B)
○新日鐵 (君津コークス事業)	-5.5～ -6.0	255.0m (2B)
○君津共同火力	-7.5	136.0m (1B)

□ 特徴

- ・ 新日本製鐵及びその他関連企業が立地しており、公共岸壁は整備されていない。
- ・ 鉄鉱石、石炭、鉄鋼など新日本製鐵及び関連企業の原材料の入荷、製品の出荷などを専用岸壁にて取り扱っている。

■富津地区



□係留施設

〔公共〕

①富津ふ頭 F 岸壁	-7.5	130.0m
②富津ふ頭 E 岸壁	-7.5	130.0m
③富津ふ頭 A・B・C・D 岸壁	-5.5	360.0m
④富津ふ頭物揚場	-4.0	857.0m

〔専用〕

○東京電力富津火力発電所	-7.0～-14.0	560.0m (2B)
○ビスキャス	-7.5	211.0m (1B)
○アイ・テック	-7.5	130.0m (1B)

□特徴

- ・ 東京電力富津火力発電所が立地し、首都圏のエネルギー供給基地として重要な役割を果たしている。
- ・ 平成 15 年 4 月にはリサイクルポートに指定され、リサイクル関連産業の誘致・集積を進めており、メタルプラスチックリサイクル施設や貝殻リサイクル施設、塩化ビニル系リサイクル施設などが立地している。
- ・ 水深 5.5m 岸壁 4 バース、水深 7.5m 岸壁 2 バースが整備され、うち 1 バースは耐震岸壁となっている。
- ・ 主要な取扱貨物は、火力発電原料の LNG や石炭製品、砂利・砂などである。

## 2-3 貨物取扱状況

### (1) 取扱貨物量の推移

○木更津港の取扱貨物量は、平成9年をピークに減少傾向にあり、平成13年には過去20年間で最低の取扱貨物量5,943万トンまで減少した。その後は若干増加傾向に転じている。

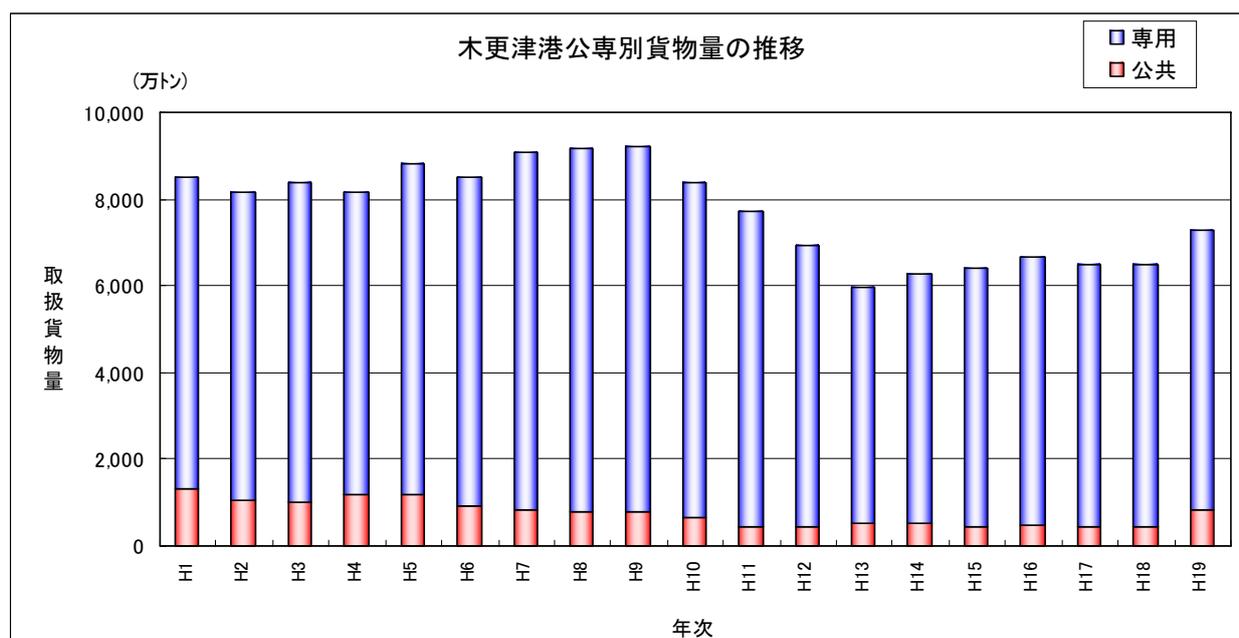
○木更津港での取扱貨物量の公専別シェア（H19）は、公共貨物11%、専用貨物89%と、専用貨物のシェアの高い港湾である。

### 木更津港取扱貨物量の推移

単位：千トン

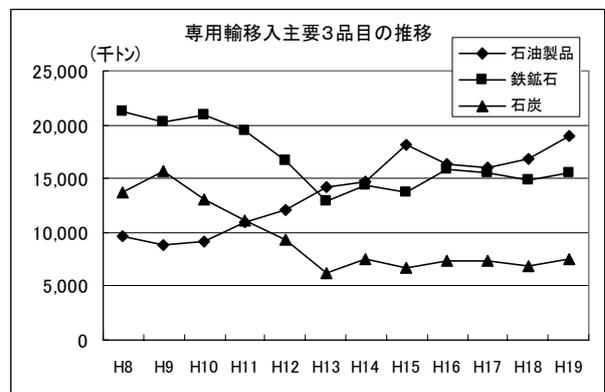
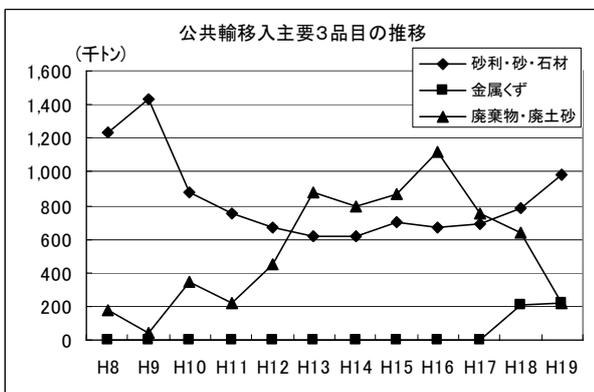
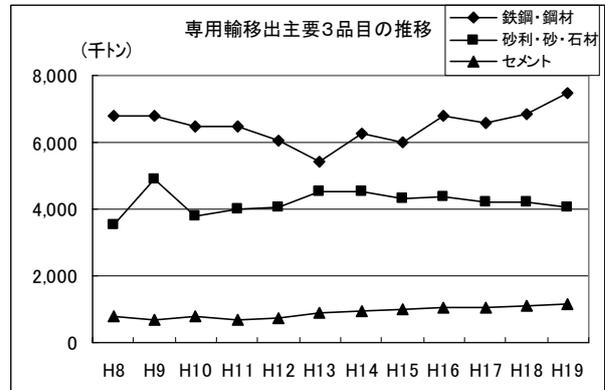
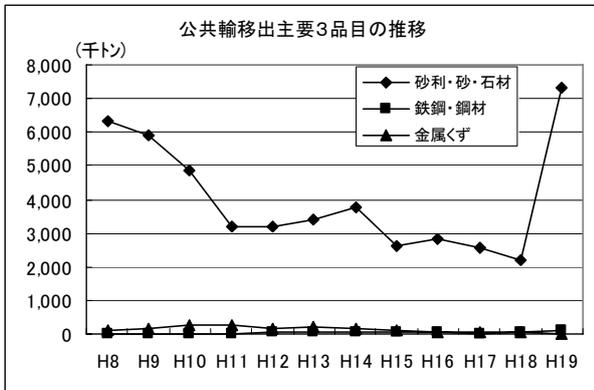
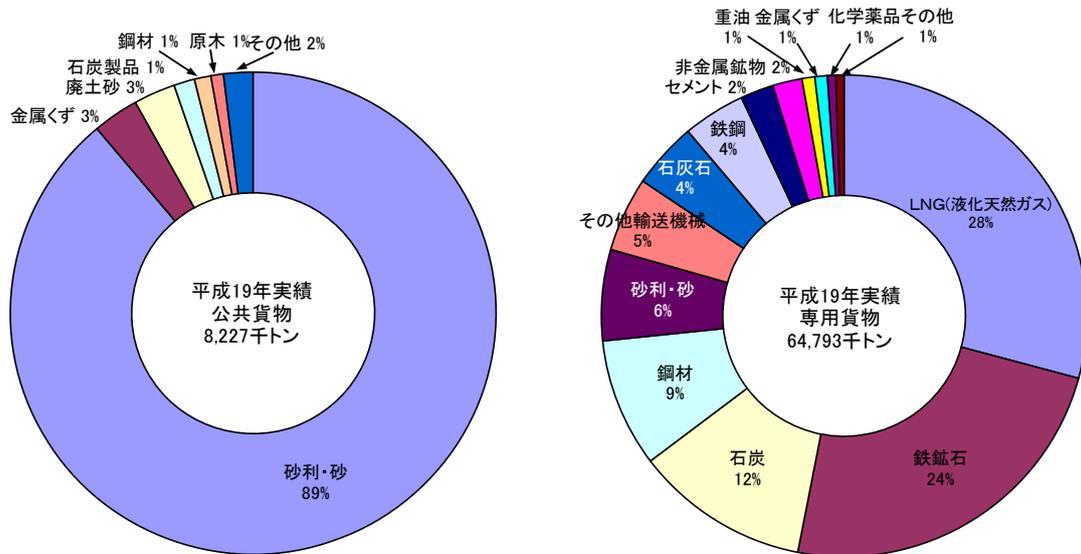
		H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19
公共	輸出						18		86	144	266	288	202	258	227	163	74	45	70	131
	輸入	28	47	57	77	143	130	119	58	56	28	23	104	83	46	117	174	206	565	488
	移出	10,509	9,314	8,811	11,192	10,920	7,678	6,254	6,386	5,987	4,870	3,187	3,187	3,433	3,776	2,671	2,897	2,587	2,243	6,368
	移入	2,562	970	1,022	774	791	1,433	1,926	1,505	1,509	1,252	990	1,082	1,461	1,415	1,543	1,774	1,481	1,436	1,240
	計	13,099	10,331	9,890	12,043	11,854	9,259	8,299	8,035	7,696	6,416	4,488	4,575	5,235	5,464	4,494	4,919	4,319	4,314	8,227
専用	輸出	1,532	1,265	1,217	1,363	1,648	1,951	1,841	2,001	2,029	2,613	1,884	1,819	2,139	3,410	2,628	2,691	2,509	2,776	3,396
	輸入	37,376	37,678	37,826	35,435	40,552	40,627	44,203	44,707	45,079	43,255	41,668	38,879	34,741	37,097	39,140	40,392	39,673	39,238	42,306
	移出	24,577	23,238	24,503	23,076	24,415	23,165	25,266	25,642	27,789	22,790	21,023	16,017	10,316	10,170	10,586	11,286	10,999	10,475	10,769
	移入	8,318	9,195	10,258	9,721	9,598	10,129	11,163	11,061	9,706	8,493	8,008	7,975	6,996	6,790	7,202	7,374	7,257	8,031	8,323
	計	71,803	71,376	73,804	69,595	76,213	75,872	82,473	83,411	84,603	77,151	72,583	64,690	54,192	57,467	59,556	61,743	60,438	60,520	64,794
合計	輸出	1,532	1,265	1,217	1,363	1,648	1,969	1,841	2,087	2,173	2,879	2,172	2,021	2,397	3,637	2,791	2,765	2,554	2,846	3,527
	輸入	37,404	37,725	37,883	35,512	40,695	40,757	44,322	44,765	45,135	43,283	41,691	38,983	34,824	37,143	39,257	40,566	39,879	39,803	42,794
	移出	35,086	32,552	33,314	34,268	35,335	30,843	31,520	32,028	33,776	27,660	24,210	19,204	13,749	13,946	13,257	14,183	13,586	12,718	17,137
	移入	10,880	10,165	11,280	10,495	10,389	11,562	13,089	12,566	11,215	9,745	8,998	9,057	8,457	8,205	8,745	9,148	8,738	9,467	9,563
	計	84,902	81,707	83,694	81,638	88,067	85,131	90,772	91,446	92,299	83,567	77,071	69,265	59,427	62,931	64,050	66,662	64,757	64,834	73,021

資料：千葉県港湾統計年報、木更津港港湾計画資料



○公共貨物は、砂利・砂、金属くず、廃土砂の3品目で全体の95%を占めている。  
 ○専用貨物は、新日本製鐵(株)君津製鐵所や東京電力(株)富津火力発電所が立地していることから、LNG28%、鉄鉱石24%、石炭12%、鋼材9%の4品目で全体の73%を占めている。

公専別取扱品目（平成19年実績）



(2) 主要品目

1) 砂利・砂貨物

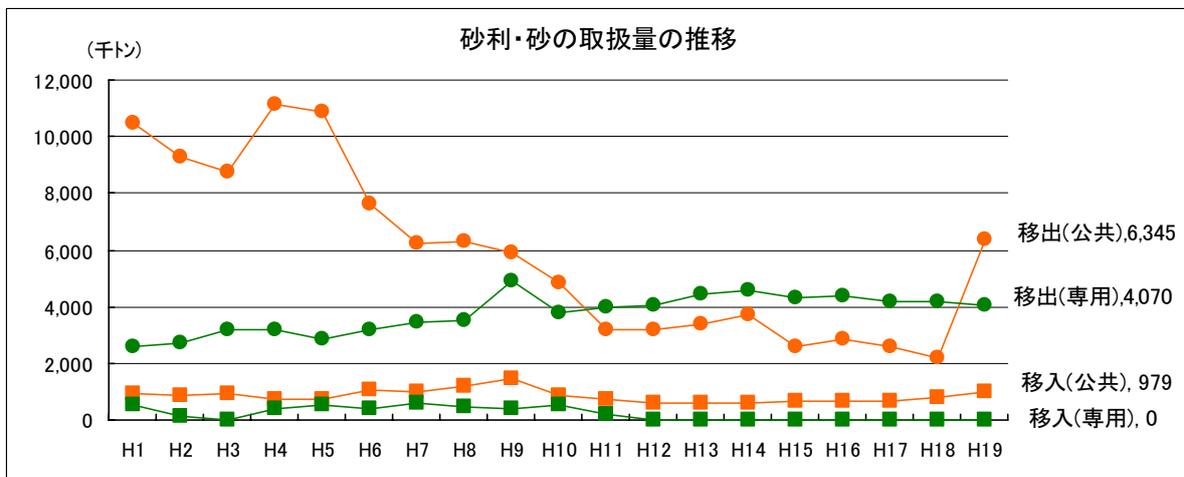
- 砂利・砂貨物の移出量は平成4年の1,430万トンをピークに、それ以降減少傾向にあり、平成18年には640万トン（平成4年貨物量の約45%）にまで減少している。
- 平成3・4年の増加時は南本牧、浮島、羽田空港の埋立工事があり、平成8・9年には東京港の新海面の埋立工事によるものである。また、平成19年には羽田空港拡張工事が開始され、急激に貨物が増加している。このように、木更津港の砂利・砂貨物は東京湾内の大規模な埋立工事により、増減している。
- 東京湾内港湾の貨物量の推移をみると、移出は木更津港が最も多く、次いで千葉港であり、千葉港はほぼ横ばいで推移している。移入は東京港、横浜港が多く、大型の埋立事業を実施している場所である。
- 木更津港の東京湾内港湾シェア（H18）は、移出67%、移入3%である。

砂利・砂貨物取扱量の推移

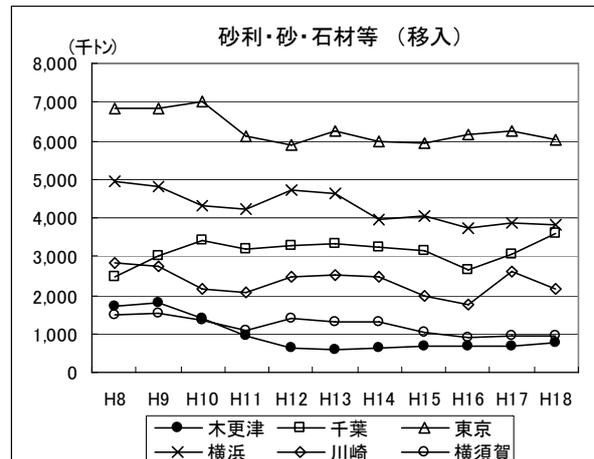
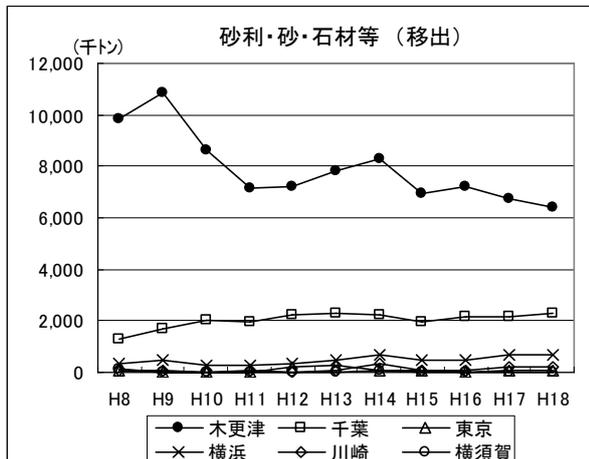
単位：千トン

	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	
移出	公	10,472	9,264	8,748	11,137	10,882	7,645	6,211	6,326	5,929	4,840	3,164	3,164	3,380	3,744	2,597	2,843	2,561	2,218	6,345
	専	2,574	2,735	3,209	3,152	2,850	3,199	3,436	3,521	4,911	3,796	4,003	4,070	4,460	4,542	4,325	4,380	4,203	4,185	4,070
	計	13,046	11,999	11,957	14,289	13,732	10,844	9,647	9,847	10,840	8,636	7,167	7,234	7,840	8,286	6,922	7,223	6,764	6,403	10,415
移入	公	928	830	914	718	701	1,063	978	1,220	1,426	868	752	623	571	612	671	643	681	780	979
	専	554	110	16	369	541	396	609	479	369	532	199	9	2	1		15			
	計	1,482	940	930	1,087	1,242	1,459	1,587	1,699	1,795	1,400	951	632	573	613	671	658	681	780	979

資料：千葉県港湾統計年報



東京湾内港湾の貨物量の推移



○平成 19 年における木更津港の砂利・砂貨物の移出先は東京湾内が最も多く 95%を占めている。移入先は東京湾内からが 34%と少なく、最も移入量の多いのは苫小牧港であり、次いで北九州港となっており、東京湾外からの移入量が多い。

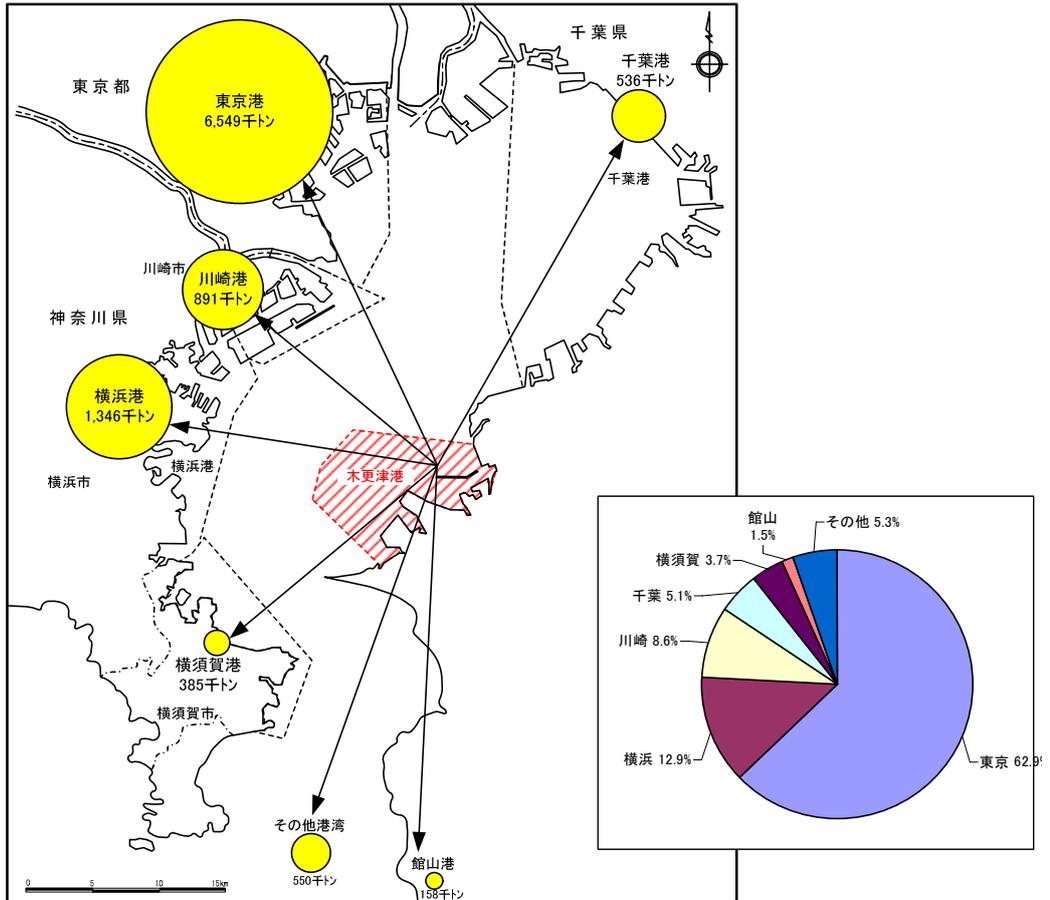
砂利・砂貨物相手港湾別貨物量(平成 19 年実績)

木更津港(H19) (砂利・砂)

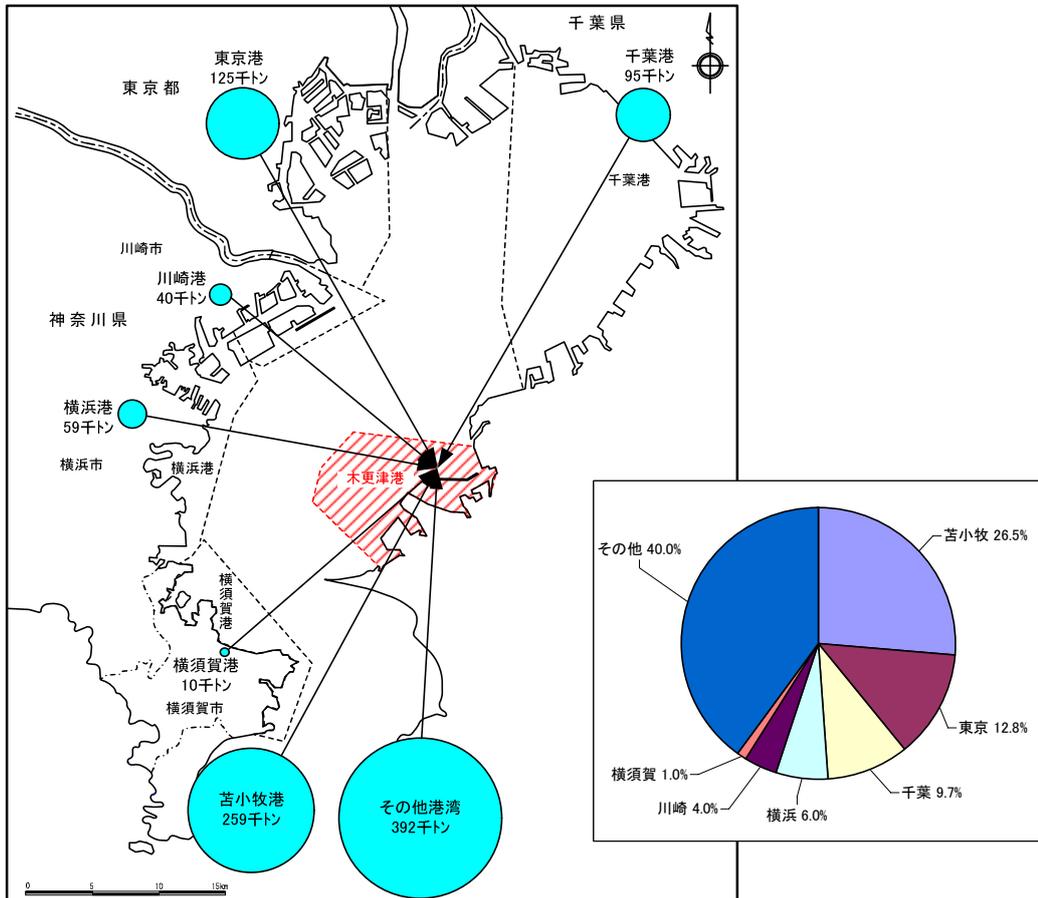
移出			移入		
港湾名	貨物量(トン)	シェア(%)	港湾名	貨物量(トン)	シェア(%)
東京	6,548,539	62.9%	苫小牧	259,105	26.5%
横浜	1,345,510	12.9%	東京	125,400	12.8%
川崎	891,230	8.6%	千葉	94,800	9.7%
千葉	535,930	5.1%	横浜	58,700	6.0%
横須賀	384,760	3.7%	川崎	39,500	4.0%
館山	158,460	1.5%	横須賀	9,950	1.0%
その他	14,650	0.1%	その他	3,850	0.4%
東京湾内計	9,879,079	94.9%	東京湾内計	332,200	33.9%
大湊	273,915	2.6%	北九州	90,320	9.2%
室蘭	122,795	1.2%	津久見	54,350	5.6%
新居浜	65,995	0.6%	宇久須	53,500	5.5%
堺泉北	33,940	0.3%	八戸	50,250	5.1%
伊東	24,200	0.2%	鳥羽	49,030	5.0%
沼津	9,400	0.1%	吉津	31,820	3.2%
その他	5,375	0.1%	女川	21,500	2.2%
			函館	7,475	0.8%
			その他	29,650	3.0%
移出計	10,414,699	100.0%	移入計	979,200	100.0%

資料:千葉県港湾統計年報

【砂利・砂(移出)】10,415トン(H19)



【砂利・砂(移入)】979千トン(H19)



## 2) 木材（原木・製材、木製品）

- 木更津港の原木・製材貨物の輸入量の推移は、平成9年の95千トンをピークに減少傾向にあったが、近年は水深12mの公共岸壁整備等により、公共貨物が急増しており、公専をあわせた取扱貨物量は平成9年ピーク時と同程度まで回復している。
  - 原木の主な輸入先はマレーシアであるが、近年は南洋材が減少傾向にあり、ロシア材が増加している。また、木製品の主な輸入先はマレーシアである。
  - 原木の輸入量は東京港が最も多く、次いで横浜港、川崎港の順となっている。
  - 輸入量は年度ごとに増減はあるものの、全体的には減少傾向にあったが、近年、横ばい、もしくは若干の増加となっている。
  - 平成18年実績の木更津港原木・製材及び木製品の輸入量の東京湾内港湾シェアは、3%であり、原木のみでは25%を占めている。
- ※ロシア材丸太輸出税引き上げ：ロシアは丸太の輸出に対し、輸出税を段階的に引き上げる。例えば、我が国への輸出税はこれまでの6.5%から2007年7月1日に20%にアップ、さらに、2009年1月1日から80%に引き上げる計画となっている。

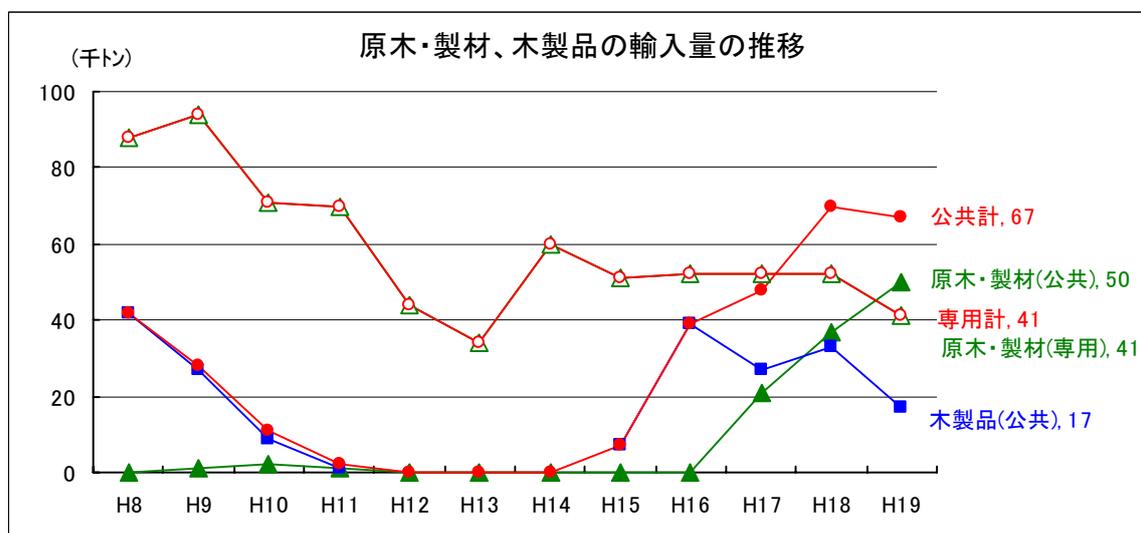
### 原木・製材、木製品の輸入量の推移

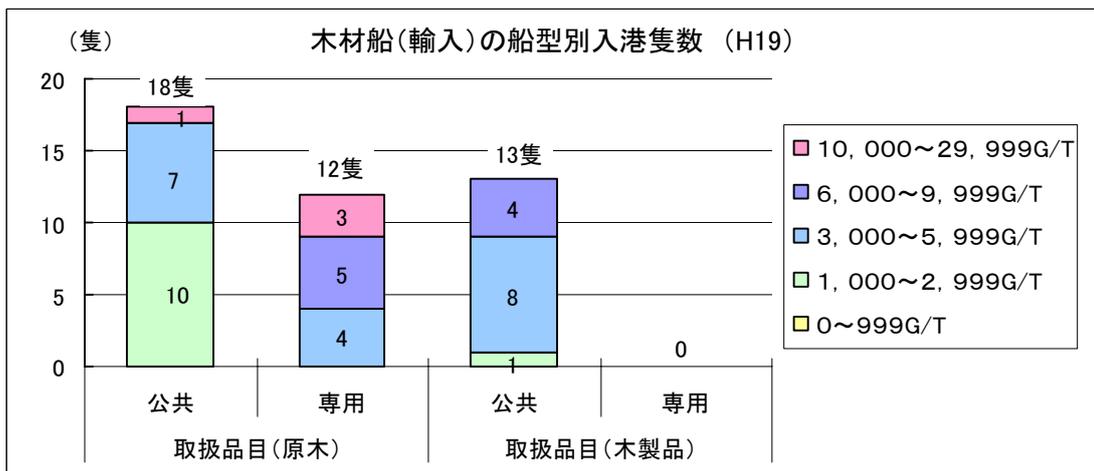
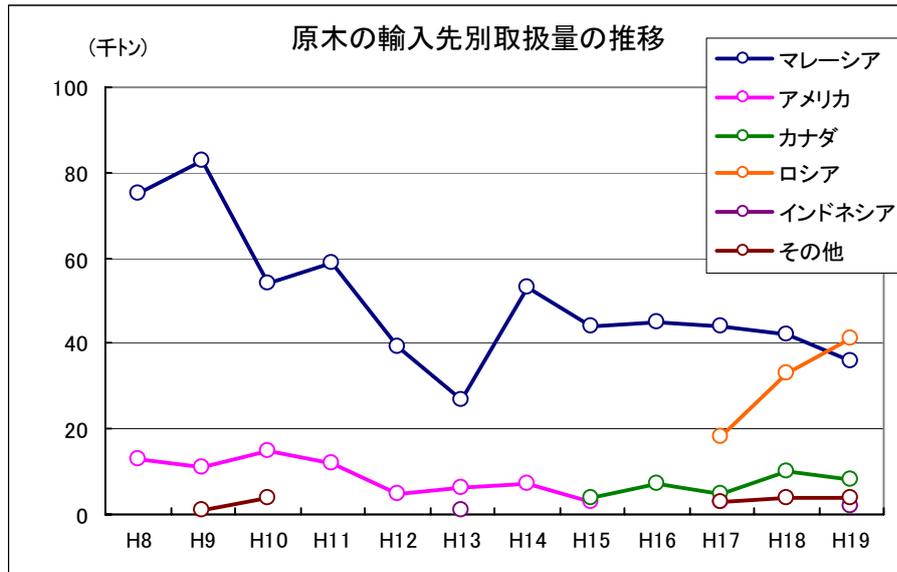
【輸入】

単位：千トン

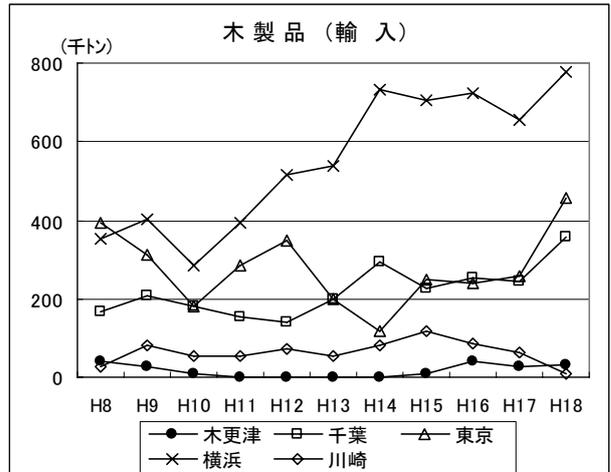
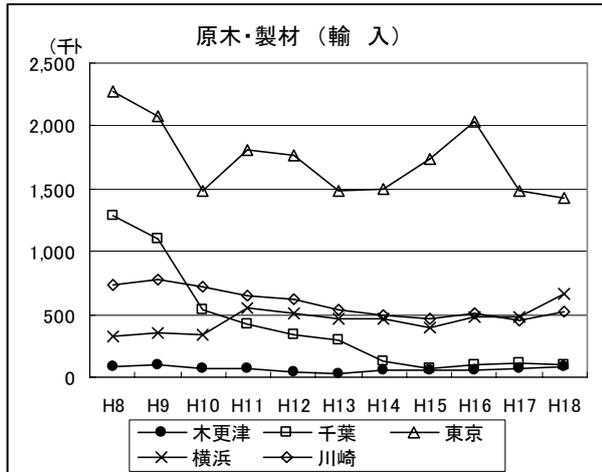
		H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19
原木・製材	公		1	2	1						21	37	50
	専	88	94	71	70	44	34	60	51	52	52	52	41
	計	88	95	73	71	44	34	60	51	52	73	89	91
木製品	公	42	27	9	1				7	39	27	33	17
	専												
	計	42	27	9	1				7	39	27	33	17
合計	公	42	28	11	2				7	39	48	70	67
	専	88	94	71	70	44	34	60	51	52	52	52	41
	計	130	122	82	72	44	34	60	58	91	100	122	108

資料：千葉県港湾統計年報





東京湾内港湾の原木・製材及び木製品取扱量の推移



東京湾内港湾の原木・製材及び木製品輸入量の推移

【原木・製材・木製品（輸入）】

単位：千トン

港名	品目	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	
木更津	原木	88	95	73	71	44	34	60	51	52	73	89	24.9%
	製材					0	0	0	0	0	0	0	0.0%
	木製品	42	27	9	1	0	0	0	7	39	27	33	2.0%
	計	130	122	82	72	44	34	60	58	91	100	122	2.7%
千葉	原木	1,287	1,101	531	427	134	123	75	22	38	57	54	15.1%
	製材					206	177	50	46	64	55	51	2.1%
	木製品	167	206	183	154	142	198	292	227	251	243	357	21.8%
	計	1,454	1,307	714	581	482	498	417	295	353	355	462	10.4%
東京	原木	2,266	2,037	1,433	1,704	268	253	463	166	196	258	213	59.7%
	製材					1,499	1,229	1,039	1,567	1,836	1,221	1,209	49.4%
	木製品	393	312	181	287	347	200	119	249	239	256	457	27.9%
	計	2,659	2,349	1,614	1,991	2,114	1,682	1,621	1,982	2,271	1,735	1,879	42.3%
横浜	原木	322	354	344	552	506	470	36	5	4	4	1	0.3%
	製材					0	0	400	364	475	480	665	27.2%
	木製品	351	401	286	391	514	540	685	673	724	654	779	47.6%
	計	673	755	630	943	1,020	1,010	1,121	1,042	1,203	1,138	1,445	32.5%
川崎	原木	729	778	624	643	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
	製材					627	537	489	460	508	454	523	21.4%
	木製品	29	82	52	53	72	54	81	118	87	62	11	0.7%
	計	758	860	676	696	699	591	570	578	595	516	534	12.0%
横須賀	原木	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
	製材					0	0	0	0	0	0	0	0.0%
	木製品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
東京湾6港計	原木	4,692	4,365	3,005	3,397	952	880	634	244	290	392	357	100.0%
	製材					2,332	1,943	1,978	2,437	2,883	2,210	2,448	100.0%
	木製品	982	1,028	711	886	1,075	992	1,177	1,274	1,340	1,242	1,637	100.0%
	計	5,674	5,393	3,716	4,283	4,359	3,815	3,789	3,955	4,513	3,844	4,442	100.0%

資料：港湾統計（年報）

- ※ 原木：製材用丸太、合単板用丸太、そま角<sup>ハ</sup>、<sup>ル</sup>用、チップ<sup>フ</sup>用等
- 製材：板類、ひき割り類、ひき角類、耳付き材、銘木等
- 木製品：単板、合板、プレハブ建築物、工業生産建築物等

### 3) 鉄鋼・鋼材

○東京湾内6港の港湾別に鉄鋼・鋼材の推移をみると、輸出は、木更津港が多く、他港湾はほぼ横ばい又は減少傾向である。輸入は千葉港が多いが、近年木更津港の輸入量も急激に増加している。移出貨物は、木更津港が多く、移入貨物は千葉港が多い。

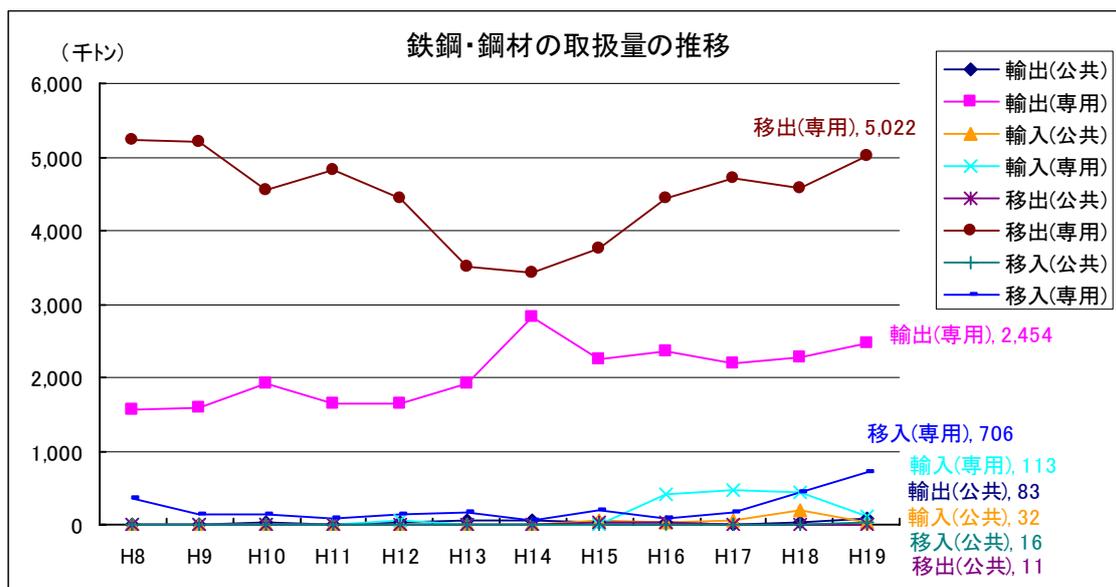
○木更津港は製品としての鉄鋼・鋼材の出荷が多く、千葉港は半製品として鉄鋼を入荷していることがわかる。また、木更津港は製品の出荷に船舶を多く利用しているが、千葉港は輸出量は多いものの、移出量は少ない。また、製品の輸出として多いのは横浜港であり、いずれも大規模な製鐵所が立地している。

鉄鋼・鋼材の取扱量の推移

単位:千トン

		H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	
鉄鋼・鋼材	輸出	公	3	13	21	11	26	42	62	24	18	11	29	83
		専	1,559	1,592	1,909	1,657	1,643	1,918	2,825	2,238	2,362	2,203	2,281	2,454
		計	1,562	1,605	1,930	1,668	1,669	1,960	2,887	2,262	2,380	2,214	2,310	2,537
	輸入	公				6	9	6	10	43	25	51	196	32
		専					46		2	3	413	461	441	113
		計				6	55	6	12	46	438	512	637	145
	移出	公	3			2	2	9	13	41	27	13	13	11
		専	5,235	5,214	4,541	4,832	4,435	3,509	3,436	3,744	4,439	4,699	4,582	5,022
		計	5,238	5,214	4,541	4,834	4,437	3,518	3,449	3,785	4,466	4,712	4,595	5,033
	移入	公			6	3	1	2	5	1	8	2	6	16
		専	348	145	133	92	134	156	56	196	80	175	448	706
		計	348	145	139	95	135	158	61	197	88	177	454	722
	計	公	3	13	21	17	35	48	72	67	43	62	225	115
		専	1,559	1,592	1,909	1,657	1,689	1,918	2,827	2,241	2,775	2,664	2,722	2,567
		計	1,562	1,605	1,930	1,674	1,724	1,966	2,899	2,308	2,818	2,726	2,947	2,682

資料: 千葉県港湾統計年報



### 東京湾内港湾の鉄鋼・鋼材取扱量の推移

